

# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都府中市幸町 2-13-29
園名	ぱる★キッズ府中

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感で感じ、生活へ広がる木育活動 ～身近な木との出会いからものづくり体験へ～  
(4) 生活の中の木に気づき、木の台を作る体験)

<テーマの設定理由>

12月のぱる★キッズ探険隊以来、散歩や室内遊びにてたくさんの木に触れてきた。自然の木だけでなくもっと身の回りにある木の存在にも目を向けられるようにしたいと考えた。また、木が板になるまでの過程を知ったり、園内のいす・机・床など、日頃から子どもたちが使っている物に木が使われていることに気づいたりする中で「木の専門家(=木の先生)」との出会いやものづくりの経験へとつなげていきたいと思った。

## 2. 活動スケジュール

- ①生活スペースの中の「木」でできているものを探す …3月
- ②靴を履く場所に何があったらいいかな?を考える …3月
- ③「木の専門家」を「木の先生」として招き、ものづくり体験を行う …3月

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

木が板になるまでが書いてある本『山の木、とどけ! つなげる つながる 木の仕事』  
かなな節、木のメダル、丸太、スモック、  
フロアの木質化を担当した木工業担当者(木の先生)、端材キューブ、やすり、木の台用板、電動ドリル、ビス

## 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 7. 生活の中の木に気づく …3月  
これまで様々な木に触れてきた流れを受けて、保育者が「お部屋の中にも木でできているものあるかな?」と問いかけると、子どもたちから「机!」「椅子!」「床!」「ドア!」「壁!」「棚!」「ロッカー!」と次々に声があがり、指をさして知らせる姿も見られた。
- 8. 木の台(すのこ)作り …3月  
2歳児室から外に出る出口(窓の外)に段差があり、散歩時の出入りに子どもたちが苦慮していた。「ここに何があると便利かな?」と聞くと「台!」「木!」という声があがり、「木の先生」を招いて木の台作りを行うことになった。

まず木が板になるまでを絵本で知り、その後、木片のやすりがけ体験を行い、木の表面がつるつるになることを感じた。

台作りでは電動ドライバーでビス打ちに挑戦し、「ドドドって音がした！」と驚きながらも真剣に取り組んでいた。

午睡後には木の台が完成し、裸足で乗って「すべすべしてる！」「木の匂いする！」と喜ぶ姿が見られた。

自分たちも手伝った台を使い、窓から外へ出られるようになったことを嬉しそうにしていた。

別の日には積み木として重ねて遊びながらも、同じ木を繰り返し選ぶ姿が見られ、継続して興味を持っていることが感じられた。

#### <活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- 「机！」「椅子！」「床！」「ドア！」「壁！」と次々に声があがり、さらに「棚！」「ロッカー！」と指をさして知らせる姿も見られた。身近な生活の中に木が使われていることへの気づきが自然と広がっていく様子が印象的だった。
- 保育士の「他にも探してみよう！」という言葉に、嬉しそうにうなづく姿が見られた。
- 「ここに何があると便利かな？」の問いかけに「台！」「木！」と積極的に応える姿が見られた。
- 「木の先生」との関わりを通じて、木への興味・関心が高まった。
- やすりがけでは木の感触の変化に気づき、感覚的な学びを体験した。
- 電動ドライバーの音や感触に驚きながらも、真剣に取り組む集中力を発揮した。
- 完成した台に裸足で乗り「すべすべしてる！」「木の匂いする！」と五感で喜びを表現した。
- 自分たちが関わって作った台で窓から外へ出られる達成感・満足感を共有していた。

【活動の様子】別紙参照：活動報告書④ 子どもたちの様子（生活の中の「木の台」を作る体験）.pdf

#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

「お部屋の中にも木がある」という問いかけひとつで、子どもたちが自ら周りを見渡し、次々と気づきを言葉にしていく姿に、これまでの木との関わりが確かに積み重なっていることを感じた。

子どもたちが「窓から外に出たい」という生活の中の困りごとを自分たちで考え、「木の台があればいい」という気づきにつながったことで、探究のきっかけが日常の中にあることを改めて感じた。子どもの声をていねいに拾い、活動へとつなげる保育者の関わりりの大切さを実感した。

「木の先生」との関わりを通して、本物のものづくりを体験できる機会となった。園外の大人であり木材の専門家と直接関わる経験が、子どもたちの真剣さや集中力を引き出すことがわかった。

やすりがけ体験では、木くずが出る様子や手触りの変化に夢中になって取り組む姿が見られた。電動ドライバーのビス打ちでは最初こそ音や振動に驚いていたが、次第に真剣な表情で挑戦し、打ち終えた後の満足げな表情が印象的だった。本物の道具に触れることで、子どもの集中力と達成感が自然と引き出されることを感じた。

午睡から目覚めると完成していた木の台に、子どもたちは新しい木の匂いやすべすべした手触りを楽しみ、自分たちも手伝った台で窓から外へ出られた喜びを全身で表現していた。生活に役立つものが自分たちの関わりで生まれたという実感が、ものづくりの楽しさや木への親しみにつながったと感じた。

「木の先生」との関わりを通して、本物のものづくりを体験できる機会となった。園外の大人であり木材の専門家と直接関わる経験が、子どもたちの真剣さや集中力を引き出すことがわかった。

やすりがけ体験では、木くずが出る様子や手触りの変化に夢中になって取り組む姿が見られた。電動ドライバーも、身近な自然素材に触れながら、子どもたちの気づきや探究心を大切に活動を持続していきたい。